

第7期第1回 新潟市亀田地区公民館運営審議会 議事概要

日 時： 令和元年6月26日（水） 午後2時～午後4時

場 所： 亀田地区公民館（江南区文化会館）講座室1

出席者： 新潟市亀田地区公民館運営審議会 浅野委員、植木委員、遠藤委員、小見委員
齋藤委員、坂井委員、田村委員、塚野委員

弦巻委員 (五十音順)

事務局	亀田地区公民館	澤栗（館長）、捧（主任）、笠原、狩谷、小林、廣木
	曾野木地区公民館	樋口（館長）、山田
	横越地区公民館	池田（館長）、高山

1 開会 館長あいさつ

2 正副議長の選任について

議長に齋藤委員を、副議長に田村委員を選任

議長、副議長あいさつ

3 議事（報告事項）

（1）平成30年度事業報告について

（事務局） 平成30年度事業実施結果を報告

（田村委員） 横越地区公民館の語り部サークルの子どもたちは何年生が発表したのか。

（事務局） 6年生2人、4年生と3年生が1人ずつ。

（田村委員） スタート時は人数が少ないと思ったが、身になってすごくよかった。館長の熱意が伝わった。

（事務局） 事業評価シートの結果を報告

（田村委員） 評価がそれぞれの事業ごとではなく一括まとまって出ている。どの事業がD評価やC評価を受け、なぜその評価になったか、この資料では分からない。

（事務局） D評価の事業廃止の中には、役割を終えて終わるものの他に、今年度限りの実施だった「茶の間の学校」や活動協力員事業から現代的課題を探り解決を支援する事業に名称と括りが変わった事業もある。

（田村委員） 移行したということか。

（事務局） はい。

（田村委員） 亀田の3番家庭教育のC評価は何か。

（事務局） シリーズで開催していた「父親学級」自体を1回開催とすることから縮小と評価したが、父親学級をゆりかご学級にくっつけて「ゆりかご学級特別編」と形を変えて取り組む。

（田村委員） 4番のC評価は何か。

（事務局） 子どもの参加が少ないため春・夏の「わくわくキッズスクール」を見直した。

（田村委員） 曾野木のD評価は何か。

（事務局） 学校と共催でやってきた「てづくり楽校」を予算の関係で4校開催から曾野木小学校、東曾野木小学校の2校の開催となる。来年度以降は予算がつくか分からないがコミュニティ協議会と共催の形でお金をいただければ開催を続けたい。

（齋藤議長） 拡大しようと思っている亀田のA評価の事業をもう少し説明してほしい。

(事務局) 「コミュニティコーディネーター養成講座」は今年3月開催した防災講座を今年度からこの先3か年計画でより拡大していこうとするもので、最終的に防災による自主活動グループ結成に向けて取り組んでいく。

(斎藤議長) 家庭の教育力の向上を支援する事業のA評価は何か。

(事務局) これまでの公民館の「プレママパパ講座」は人員確保に苦勞していた。一方健康福祉課の「安産教室」では家庭教育の講話の時間確保ができなかった。この二つが一緒になることで江南区としてターゲット層に情報を届けるといことで拡充となった。

(小見委員) 確認だが、評価シートの「受講者の満足度」の目標値はすべて80%なのか。

(事務局) 決められた数値である。

(2) 令和元年度事業計画について

(事務局) 令和元年度事業計画を説明

(坂井委員) 亀田の「わくわくキッズスクール」は未定だが、どう考えているか。

(事務局) 大学生の日程の都合を考え秋の通常の間期の休日を狙っている。内容については未定である。

(坂井委員) 学生のグループは毎年同じメンバーか。

(事務局) 毎年変わる。

(坂井委員) 何年やっているのか。やっている内容、中身は同じか。

(事務局) 平成29年度からで今年で3年目。内容は毎回変わる。

(坂井委員) 毎年参加者が少ないと話があったが、内容の企画作りを大学生に投げかけてみてはどうか。

(田村委員) (曾野木地区公民館の) 調理実習は人数が限られているのか。

(事務局) 調理室が20人しか入れない。

(田村委員) 参加したい子どもみんな参加が原則だと思う。無理して1日やる必要はないし楽しいイベントであれば子どもはやって来る。やはりたくさん子どもに来て欲しい。

(坂井委員) 参加した小学生にアンケートを取っているか。小学生も企画に入れ、小学生と大学生と公民館、みんなで作っていくところから始めてもいいかと思う。

(事務局) 横越は半日の子ども向けは集まらない。1日にすると定員オーバーになる。今年8月に「タイムカプセル作り」をするが材料費で600円かかる。ボランティアでカレーを作ってもらおうとか、保護者にとって1,000円払っても2日間子どもを公民館の体験学習会に参加させることが必要か、この場でお伺いしようと思っていた。

(斎藤議長) 1,000円は大きい。活動としては1日500円くらいか。

(田村委員) 調理を担当してくれる人はたくさんいる。コミュニティ協議会に頼むといい。

(坂井委員) お昼ごはんもついて1日だったら親としてはすごく嬉しい。

(事務局) 曾野木地区公民館の少年事業はみんな半日だが、子どもが本当に集まる。

(坂井委員) 曾野木は隣が小学校で子どもだけで行けるということは大きい。亀田はバスか自転車や送迎がないと行けない。

(斎藤議長) 面白い内容を検討することがポイントとなる。価格、ものづくり、あるいは地域とともにというのは小学生にとってすごく大事なことなのだと思う。

(田村委員) 3館それぞれ本当に頑張っている。そこでお聞きしたい。横越の「女性セミナー」だが「共生セミナー」にできないか。女性を特に問題視するのではなく、男性もいる

いろな方から出てもらえるようにしていただきたい。もう1点、文集作りは何の文集を作るのか。

(事務局) 昭和50年当初から「ゆりかご学級」の卒業記念文集を作っている。親が生まれた子に対して今思っていること、その時しか書けないことが書かれている。

(田村委員) そういうものを宣伝すればもっと集まってくるのではと思う。

(事務局) その当時赤ちゃんだった人が今親になって、親子二代で受けている人も出てきている。昭和50～60年代は働いていない親や転勤族で友だちがいない親の参加者が非常に多かったが、平成に入り働く親も増え育児休業制度が充実してきたから受けられるようになったという人が多い。

(斎藤議長) 公民館事業費が削られる中で「ゆりかご学級」は、保育室がないとだめなのでここにまたお金がかかる。

(植木委員) 子どもにお金をかけるのは一番大事なことだと思う。

(遠藤委員) 児童期、思春期の問題も大きい。家庭教育関係の予算が削られていると話があったが、PTAと連携するなどしてそういう課題も落とさずやっていけるといいのではと思う。

(田村委員) PTAと連携することで講演をうてる。小中と連携してたくさん親にいろいろなものを聞いていただきたい。

(斎藤議長) 将来的に公民館が中高生のサポート、生きる力を日常的にバックアップできるような企画をもう少しやればと思う。

(坂井委員) 昨年度横越の児童期に参加したが、その際参加したお母さんから他の学校のお母さんと話をする機会がありがたいとの声をきいた。公民館は、地域の課題解決の場としてあってほしいし、学校やコミュニティと関係ないところで話せるいい場所だと思った。

(斎藤議長) 思春期もひきこもりの数からすれば少ないが、当事者には重い問題である。学校ではなく、どこかに行って話したり遊べたりする場所に最後の砦として、社会教育の要として公民館があるのだと自負を持って頑張ってもらいたい。

(坂井委員) 親としても子どもが公民館へ行っているというのは安心だ。

(田村委員) これからの社会は、公民館単独というより健康福祉課、地域総務課と連携といった江南区として連携、統合された関係かと思う。そういう道を是非考えていただきたい。

(斎藤議長) 公民館の事業がよくなり、江南区がよくなっていくには忌憚のない意見をいただくことだと思う。皆さんにはこれからも公民館事業にご協力をお願いしたい。

【配布資料】

- ・資料1－1～3 平成30年度事業報告（亀田・曾野木・横越）
- ・資料2－1～3 平成30年度事業評価シート（亀田・大江山・曾野木・両川・横越）
- ・資料3－1～3 令和元年度事業計画（亀田・曾野木・横越）